

平成29年度 佐賀学園高等学校 学校評価

1 学校教育目標

校訓である「創造」「躍動」「貢献」を具現化するために、生徒一人ひとりが相互並びに教職員との信頼を基にした人間関係を構築し、知性を磨き、個性豊かで、志高く、建学の精神「産業界の第一線に貢献する人材の育成」を目指す。

2 学校経営ビジョン

- ① 県民・地域社会の信頼を得る学校づくりを目指す。
- ② 基本的な生活習慣を定着させ、授業・部活動・学校行事および生徒との面談等を通して生徒の内面への思いやりをもった心豊かな生徒の育成を目指す。
- ③ 生徒一人ひとりの学力・人間力を伸ばし、すべての生徒の進路保障を目指す。
- ④ 部活動の奨励と充実を図り、全国で活躍できる生徒の育成を目指す。

3 本年度の重点目標

- ① 2万人を超える卒業生によって築かれた伝統を継承するとともに、更なる学校の活性化に向けて全職員が一丸となり、「生徒一人ひとりに寄り添い、伸ばす教育」の実践を行い、社会で活躍する人材を育成するために、次の8点を重点目標に掲げ、生徒の1人づつのために進捗する。
- ② 基本的な生活習慣を定着させ、授業・部活動・学校行事および生徒との面談等を通して生徒の内面への指導を充実させ、遅刻・欠席・問題行動・転退学者の減少を図る。
- ③ 分かる授業の実践および基本的学習習慣の定着を図ることによって基礎学力の定着と学力向上に繋げ、学校生活の充実を図る。そして、進路実現100%を目指す。
- ④ ボランティア活動の推進、生徒の服装容姿等のマナーアップにより、地域に信頼される学校づくりを目指す。
- ⑤ 学校行事、学年行事、ホームルーム活動の充実により人間力の向上を目指す。
- ⑥ 生徒一人ひとりの個性を大切に、また、家庭との連絡を図るなど細かな指導で、入学させた生徒全員を卒業させることを目指す。
- ⑦ 商業系生徒の資格取得の向上、特に英語検定の上位資格取得を目指す。
- ⑧ 清掃活動を重視し教育環境の整備に努める。
- ⑨ 部活動の加入率を向上させ、各種大会で上位を目指す。

4 前年度の成果と課題

生徒募集は対策室をはじめ教職員の努力で目標額をクリアすることができたが、佐賀市内中学校から生徒の確保については厳しい状況が続いており、地域から信頼される学校として、更なる教育内容の充実、生徒の服装や立ち振る舞いの改善が急務である。マナレをはじめ基礎学力の定着と成績向上等の学力向上は昨年引き続き課題が残った。授業をはじめ生徒指導で教員が生徒と向き合う姿勢の構築が必要である。平成29年度は、地域から信頼される学校を目指して、生徒の学力向上とマナーアップ(服装と立ち振る舞い)が最重点課題である。基礎学力の定着を含む学力向上のために教師及び生徒が共に真摯に授業に取り組むこと、マナーアップのために生徒の自覚喚起および全職員が徹底して生徒の指導に当たり本校のイメージアップを図ることが必要である。また、部活動の実績向上を目指す。

5 総括表

領域	評価項目	評価の観点 (具体的な評価項目)	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
学校経営方針	学校経営方針	・本年度の重点目標を生徒・保護者に周知し、重点目標に積極的に取り組めたか。 ・重点目標に従い、各分掌等で具体的な行動目標を掲げ実践できたか。 ・各分掌等の目標達成に向けて、定期的に進捗状況を把握できたか。 ・職員の実績向上が図れたか。	・重点目標を知っている生徒・保護者の割合を80%以上にする。 ・重点目標の取り組みについて、生徒・保護者が「非常に良い」「良い」の評価を80%以上にする。 ・分掌・学年が決めた目標達成に向けて部長・主任へのアドバイスを頻りに行う。 ・職員研修の機会を増やす。また、授業見学を行い、職員との面談の機会を多く持つ。	・全校集会、振興会総会、学校通信で重点目標を生徒・保護者に知らせる。 ・各分掌部長と学年主任に対して月毎に面談し進捗状況を踏まえ目標達成に向けた取り組みを強化する。 ・初任者研修で若手職員の育成、授業見学によりベテラン教員の更なる充実を図る。	C	・重点目標の職員・保護者への周知がまだまだ不十分である。特に、職員会議等で何となく言っているのに、重点目標を知らない職員がいることは懸念の低さと捉えざるを得ない。初任者研修については担当職員の研修もあつて一定の成果を得た。次年度は目標を分かりやすくし、職員一丸となり本校を発展させた。
	生徒募集(広報活動)	・本校のセールスポイントを中学生とその保護者に正しく伝えられたか。 ・受験者数の増加につながる募集活動が行えたか。	・パンフ、チラシ、パワーポイント、DVDで他校との差を理解させる。 ・受験者数の前年度比110%、専願入学者180名を目標とする。	・種々の募集関連事業の実行委員会を設け、共有と協働を基本に戦略を練る。 ・新校舎、部活動、資格取得、進路保障を全面的にアピールする。 ・女子中学生を対象とした募集の展開を行う。	B	・中学卒業生数が大きく減少しているとはいえ、前年度比で受験者数、専願入学者数ともに減少し目標達成に至らなかった。PRの方法を再検討し定員の確保に努める。
学校運営	学校運営	・校内の施設利用に当たり、生徒・職員の安全安心は確保できるか。	・校内の各教室、各設備等を利用するに当たり、不具合等はないか確認する。	・不具合等が確認された場合には、充分に検討を行い、改善へ向けに対応する。	B	・不具合が確認された箇所については、その安全性を確認し、必要に応じて随時修繕等を実施した。 ・教室床面の洗浄及びワックス掛けを実施した。 ・安心・安全な施設利用に向けて、教育環境の整備を継続していく。
	学校事務				B	
職員の指導力向上	職員の指導力向上	・社会の変化に対応した教育の実践ができたか。 ・内容が濃く、わかりやすい授業ができたか。	・佐賀県教育センターの教育相談・生徒指導に関する講座、特別支援に関する講座等専門講座や公開講座の中から年間1回以上を受講する。 ・生徒が充実感を味わえるような授業を展開し、授業改善アンケートの評価を参考に継続に努める。	・職員研修会を各校務分掌で企画する。教育センターの研修講座に15名以上参加する。 ・各教科での授業研究会を開催する。 ・職員相互の授業参観を活性化し、授業の質を向上させる。	B	・教育センターの専門講座については11講座21名が参加をし研修を行った。 ・教員研修についての職員研修会を2回実施した。 ・各教科の研究授業は計画通り実施でき、公開授業週間でも授業参観を行ったが、より深い内容ができればと思う。 ・授業アンケートの結果を参考に授業の質の向上に努める。
	学力向上	・基礎的知識と技能の修得が図られたか。 ・進路を見据えた学力が定着したか。	・「規律ある授業」の確立と「生徒の興味関心」に繋がる分かる授業を展開する。 ・家庭学習の習慣化と進路に対応できる学力を定着させる。	・学習規律を定着させる。 ・各教科を機能させ「分かる授業」のための手立てを研究し、共通理解のもとで実践する。 ・平時より課題を課し、評価する。	B	・学力の定着には、個々の実態に即したきめ細かな粘り強い個別指導と、指導体制(教科担当、担任、部顧問、家庭等)の連携を築くことが必要と思われる。
教育活動	進路指導	・進路を実現できるための基礎学力ができたか。 ・発達段階における進路意識が、具現化するための意識に繋がったか。 ・進路がイタズラ等がキャリア教育に生かされたか。 ・希望進路が具体的な進路保障に繋がったか。	・進路指導講話や、外部教育力を生かした進路意識の向上を図る。 ・受験に対応した学力と基礎力診断テストによる学習力(GT2)の向上を図る。 ・成績優秀者を牽引力とした国立立大学合格者数増加を目指す。 ・就職内定率100%を達成する。	・進路調査、適性検査などで個々の客観的データを分析する。 ・三者面談、オープンスクール、企業研究等により、ミスマッチのない進路指導を行う。 ・就職希望者の学力向上対策セミナーを実施する。 ・担任によるFINE SYSTEMの活用により具体的な指導を活性化させる。 ・新規企業開拓、企業訪問を例年通り実施する。	B	・各学年に対しての進路希望調査、佐賀県青年工業会における情報交換会や進路ガイダンスにより具体的な進路指導が実施できた。 ・上級校への進学に関しては、指定校推薦やAO入試の利用により、ある程度の合格者を出しているが、国立立大学については成績優秀者の牽引が課題である。 ・進路決定の中で辞退者が出た。進路就職に関するしつかりとした心構えを持たせる必要がある。 ・FINE SYSTEMの利用に課題が残る。
	生徒指導	・制服の着こなしは正しくできているか。 ・校外で正しいマナーが守られているか。 ・他人に迷惑をかけていないか。	・制服を正しく着用する。 ・いつでもどこでもマナーアップの意識を持つ。 ・他人・仲間とでもコミュニケーションを図り豊かな人間性を目指す。	・教員主導だけでなく生徒会をリーダーとする生徒自らの服装整備を目指す。 ・内容的な指導を行いながら、マナーアップに努めさせる。 ・常に、意識を向上させる。	B	・制服の着こなしについては、校外において不十分なものがあるが改善されている。 ・マナーについてはある程度の教育効果はあったと思える。 ・SNSによる問題に関しては今後の大きな課題である。
環境美化	環境美化	・新校舎の最初の状態が維持されるか。 ・ゴミの分別収集ができたか。 ・校内美化の意識が向上したか。	・新校舎の最初の状態を維持する。 ・各クラスでのゴミの分別を強化する。	・清掃用具を充実させる。 ・美化コンクールなどにより校舎使用のマナーやモラルの向上を図る。 ・ゴミ袋の記名を徹底する。	B	・教室の床の黒ずみが見えなくなったが、廊下によるワックス作業後状態にはならなくなり、生徒の美化意識も向上しつつある。 ・ゴミの分別については、教室の分別はできつつあるが、休日の部活動の分別がおろそかになっている。
	課外活動	・仲間と切磋琢磨し、社会的や強い精神力を磨き、人間性を高めることができたか。	・部活動加入率70%を目指して、担任・顧問との連携を密にし、各部活動の部員数を増加させる。 ・各種大会で優勝を目指し、上位進出を果たす。	・部活動紹介を工夫し、生徒に興味を持たせる。 ・文武両道が実践できるように部活動の質を高める。	B	・部活動加入率は、徐々に向上しているが目標の70%を達成するために工夫を凝らしたい。
長期欠席・不登校傾向の生徒に対する対応	長期欠席・不登校傾向の生徒に対する対応	・所属学級担任・授業担当者・教科担当者・学年主任と教育相談係りで連携を図り生徒への対応が充分に行えたか。	・精神的安定が保たれ、生徒自身が学校への関心を持ち、所属学級へ戻るよう努力する。 ・教育相談室全体が、学習に取り組める雰囲気づくりを行い、学力向上を図り、生徒に自信をつけさせる達成感を味わわせる。	・職員の連携を図り、カウンセリングを充実させ心の安定をはかり、スムーズに所属学級に戻れるようサポートする。 ・所属学級の教科担当者と連携を図り、教材の準備や個別指導を充実させ、学力を向上を図る。	B	・教育相談室が職員室の隣にあり、所属クラスの担任との情報交換はスムーズに出来た。 ・管理職、スクールカウンセラーの先生方の助言やサポート体制も良かった。 ・教科担当、教育相談担当者との連携もスムーズで生徒からの不満の声もほとんどなく、充実していた。 ・今後の課題は、所属クラスに戻ることができるよう、サポート体制を強化し、カウンセリング等を深めることである。
	特定課題	・コミュニケーションの基本である挨拶、言葉づかい、面接マナー等が充分であるかどうか。	・学年進行で積み重ねていき、3年次の進路面接に活かすことと、社会人になってもすぐに活かせることを目指す。	・机上学習で学び、礼法室での実践を通して体得させる。	B	・礼法室の使用が礼法の授業に活用されていない。 ・礼法検定は全学年大会であったが実施できた。
	生徒会活動	・校内外の問題を自分たちで考え、主体的に行動できたか。	・学園活動や各種委員会活動を発行し、学校全体のマナーアップを図る。	・生徒の意見に積極的に耳を傾け、関連分掌・学年・学級との連携を図る。	B	・校内外において積極的に生徒会活動を行うことができた。 ・より発展させたマナーアップ運動を展開したい。
キャリア教育・マナレ	キャリア教育・マナレ	・毎日のマナレの内容を理解させて基礎学力を身につけさせることができたか。 ・インターシップを将来への進路選択へ結びつけることができたか。	・マナレを活用することでGT2の値がD2ゾーン以上の学力に達することを目標とする。	・マナレのより良い活用方法を常に研究して生徒の学習のフォローアップを図る。認定テストの分析、GTの活用などを行うことで学力向上を図る。 ・キャリアノートやインターシップを活用することで進路保障に結びつけることができるよう指導の充実を図る。	B	・マナレについては、有効な活用方法を見せず、更なる研究が必要である。 ・進路選択テストの実施については、授業後の実施のほうはわすれかたはあるが伸びを確認できた。今後も活用方法を研究する。 ・将来の進路選択の一つとして、インターシップやキャリアノートを定立させることができ、進路実現に結びつけることができた。

6 総合評価

生徒の基礎学力向上は授業への意欲向上、マナレの充実とともに課題である。職員の資質向上のための意識の高揚が必要である。進路については成績向上等の進路保障を含め一定の成果があった。更なる生徒の愛校・心離れを促す中で、制服の着こなし、マナーアップ、環境美化を推進する必要がある。

7 次年度への課題・改善策

地域から信頼される学校を目指して、生徒の学習意欲と学力向上、本校生徒としての自覚ある立ち振る舞いの醸成を全職員一丸となり取り組む。また、部活動加入率の増加、部活動の実績向上を図る中で自己肯定感を持つ生徒を育てたい。